

# Canon EOS 1000S



使用説明書

**J**

日本語版

# キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

このカメラは、オートフォーカス（Auto Focus：AF/自動ピント合わせ）一眼レフカメラの標準機として新たに開発された、軽量でコンパクトなカメラです。簡単なダイヤル操作と素早い自動ピント合わせ、そして内蔵のストロボは、日常のスナップを気軽に記録してくれます。

またこのカメラは被写体の動きに反応して、「ワンショット AF\*<sup>1</sup>」を自動的に AI サーボ AF\*<sup>2</sup> に切り換える AI フォーカスを採用しているため、カメラに向かって動いてくるもの、あるいはカメラから遠ざかっていくものにも正確にピントを合わせることができます。使用説明書をよくお読みいただき、十分にご理解のうえ EOS 写真の世界をお楽しみください。

\*<sup>1</sup>ワンショット AF（One Shot Auto Focus）：被写体にピントが合うと同時に露出も決まります。またピントが合うまでシャッターが切れません。

\*<sup>2</sup>AI サーボ AF（Artificial Intelligence Servo Auto Focus）：連続的に動いている被写体にピントを合わせ続けます（動体予測機能）。露出はシャッターが切れる直前に決まります。

●この使用書はカメラに EF 35-80 F 4-5.6 USMズームレンズを取り付けた状態で使用方法を説明していますが、他のレンズをお使いになる場合も基本的な操作は同じです。

## 使用説明書の構成

この使用説明書は基本編、活用編、応用編、資料編で構成されています。

初めて一眼レフカメラをお使いになる方は基本編からお読みください。

## 主な特長

1. 素早く正確なピント合わせを実現した高性能 AF。
2. 簡単なダイヤル操作で見たままを写すイメージゾーン。
3. どんな撮影状況にも対応する豊富な露出制御モード。
4. 撮影チャンスを逃さないクイックチャージ・赤目緩和機能つきリトラクタブルストロボ内蔵
5. 作動音が静粛なサイレントメカニズムを搭載したコンパクトなボディ

表紙と裏表紙の各部の名称を図のように開いてご覧ください。



・本文中の（→■頁）は参照頁を示しています。

## 各部の名称

- ① 表示パネル
- ② 電子ダイヤル
- ③ シャッターボタン
- ④ ズームリング  
(→ 15 頁)
- ⑥ グリップ/電池室  
(→ 10 頁)

⑤ ストロボ/赤目緩和ランプ (→ 40 頁)



- ⑦ アクセサリーシュー  
(→ 55 頁)
- ⑧ ストロボつまみ
- ⑨ モードダイヤル
- ⑩ ストラップ通し  
(→ 9 頁)
- ⑪ 背蓋開放レバー  
(→ 17 頁)
- ⑫ レンズ取り外しボタン  
(→ 12 頁)
- ⑬ 手動フォーカスリング  
(→ 48 頁)

## モードダイヤル

### イメージゾーン

- : 全自動 (→ 19 頁)
- 👤 : ポートレート (→ 21 頁)
- 🌄 : 風景 (→ 22 頁)
- 📷 : クローズアップ (→ 22 頁)
- 🏃 : スポーツ (→ 23 頁)

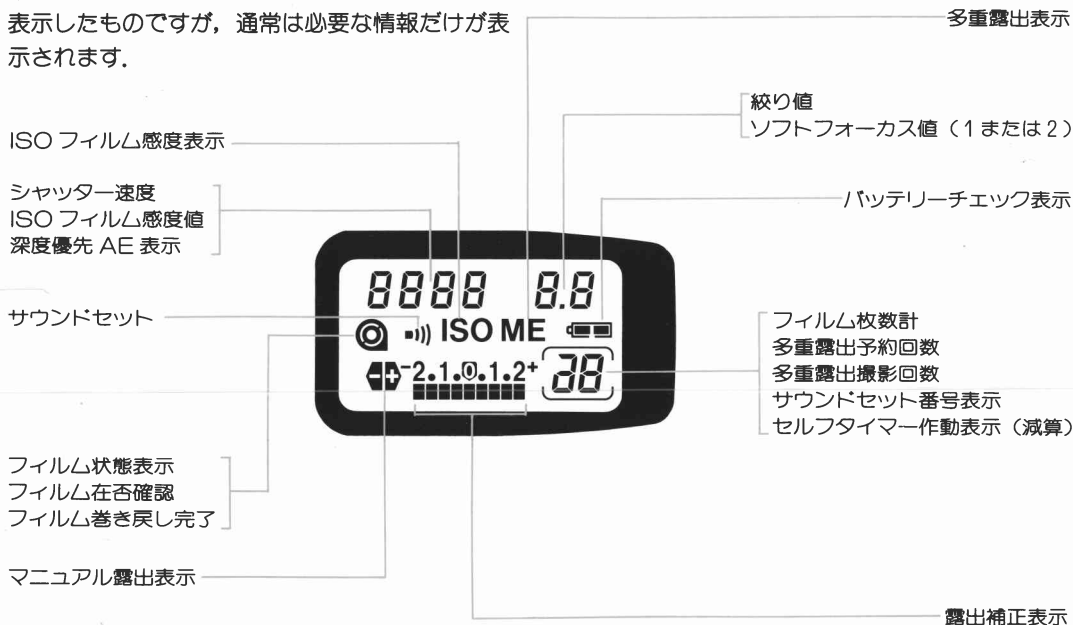


### クリエイティブゾーン

- 🔒 : ロック
- P : プログラム AE (→ 26 頁)
- Tv : シャッター優先 AE (→ 28 頁)
- Av : 絞り優先 AE (→ 30 頁)
- M : マニュアル露出 (→ 32 頁)
- DEP : 深度優先 AE (→ 33 頁)
- SF : ソフトフォーカス (→ 36 頁)
- 🎵 : サウンドセット (→ 39 頁)
- 🕒 : セルフタイマー (→ 38 頁)
- ISO : フィルム感度手動セット位置 (→ 50 頁)

# パネル表示

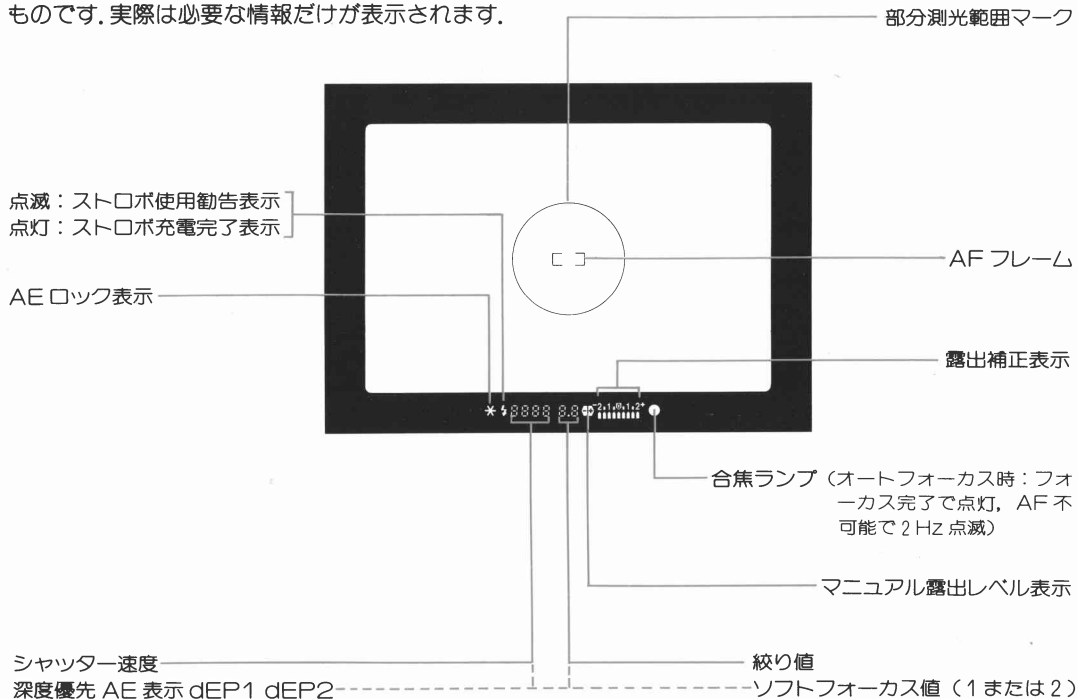
下の図は表示パネルに表示されるすべての情報を表示したのですが、通常は必要な情報だけが表示されます。



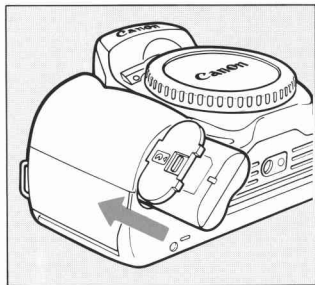
モードダイヤルをLにセットしても、カメラは表示のために微弱な電流を必要とします。

# ファインダー内表示

下の図はファインダー内の情報をすべて表示したものです。実際は必要な情報だけが表示されます。

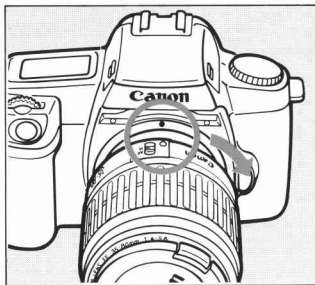


# これで、すぐ撮影できます



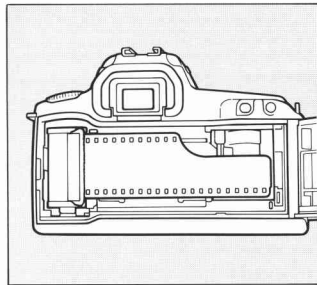
## 1 電池を入れます

- ・電池室の蓋を開けて図のような向きで電池を入れます。(→10頁)



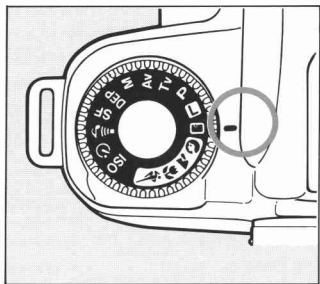
## 2 レンズを取り付けます

- ・レンズとカメラの赤マークを合わせて、レンズを時計方向にカチリと音がするまで回します。(→12頁)



## 3 フィルムを入れます

- ・背蓋を開け、フィルムを正しくセットします。
- ・背蓋をパチンと音がするまで閉じます。
- ・フィルムが最初の撮影コマまで巻き上げられ、フィルム感度も自動セットされます。(→17頁)

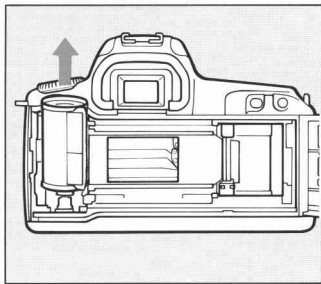


**4** モードダイヤルを**M**にセットします。



**5** 撮影します

- ・ファインダー中央の AF フレーム ([ ]) を被写体に合わせます。
- ・シャッターボタンを軽く押しします。ピピッという電子音と共に被写体にピントが合います。ファインダー内の合焦ランプも点灯します。
- ・ファインダー内のストロボマークが点滅する場合は、内蔵ストロボを上げてから撮影します (→ 40 頁)。



- 6** フィルムを取り出します  
フィルムは規定枚数を撮影すると自動的に巻き取られます (→ 50 頁)。
- ・フィルムマークの点滅を確認して背蓋を開け、撮影済みのフィルムを取り出します。

# もくじ

## 基本編

### [1] 撮影の準備と練習

1. 電池のセットとチェック ..... 10
2. レンズの取り付け/取り外し ..... 12
3. シャッターボタン押しに慣れましょう ..... 14
4. オートフォーカスに慣れましょう ..... 15

### [2] 撮影しましょう

1. フィルムを入れましょう ..... 17
2. 撮影しましょう ..... 19
  - 1) □ (全自動) による撮影 ..... 19
  - 2) フォーカスロック撮影 ..... 20
  - 3) フィルムが終了すると ..... 20
3. イメージゾーンでの撮影 ..... 21
  - 1) Ⓞ (ポートレート) ..... 21
  - 2) 🌄 (風景) ..... 22
  - 3) 📷 (クローズアップ) ..... 22
  - 4) 🏃 (スポーツ) ..... 23
4. フォーツアート ..... 23
  - 1) 日付/時刻の写し込み ..... 23
  - 2) 日付/時刻の修正 ..... 24

## 活用編

1. クリエイティブゾーンでの撮影 ..... 26
  - 1) P (プログラム AE) ..... 26
  - 2) Tv (シャッター優先 AE) ..... 28
  - 3) Av (絞り優先 AE) ..... 30
  - 4) M (マニュアル露出) ..... 32
  - 5) DEP (深度優先 AE) ..... 33
  - 6) SF (ソフトフォーカス) ..... 36

- 7) ⌚ (セルフタイマー) ..... 38

2. ストロボ撮影 ..... 40

## III 応用編

1. 部分測光 ..... 44
2. 露出補正 ..... 46
3. 多重露出 (ME) ..... 47
4. バルブ (長時間露出) 撮影 ..... 48
5. オートフォーカスができないとき (手動ピント合わせ) ..... 49
6. フィルム感度の手動セット ..... 50
7. フィルムの途中巻き戻し ..... 50

## IV 資料編

1. 撮影機能の組み合わせ一覧 ..... 52
2. AF モードとフィルム巻き上げの関係 ..... 53
3. 露出警告一覧表 ..... 54

## V 主なアクセサリ

1. 専用キヤノンストロボ ..... 55
2. 延長グリップ GR-70 ..... 55
3. 視度補正レンズ ..... 56
4. レンズフード ..... 56
5. フィルター ..... 56

## VI 取り扱い上のご注意

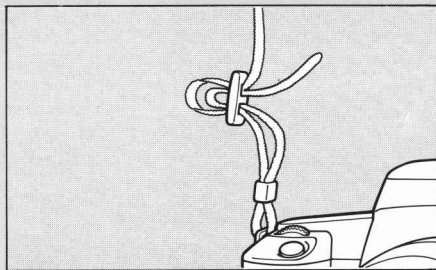
1. お手入れの方法 ..... 57
  2. 保管の方法 ..... 58
  3. その他の注意事項 ..... 58
- 主要性能表 ..... 60



# I 基本編

初めて一眼レフカメラをお使いになる方は、この基本編からお読みください。  
撮影前の準備から気軽に写真が撮れる方法までを順番に説明しています。

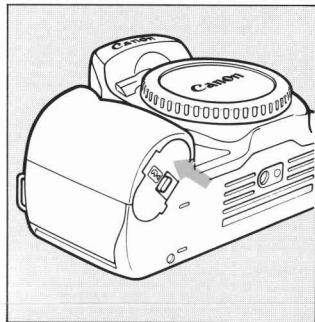
## ストラップの取り付け方



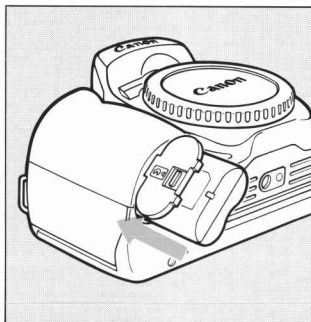
ストラップ（吊りひも）の先端は、図のように止め具の内側になるように通してください。

## 1. 電池のセットとチェック

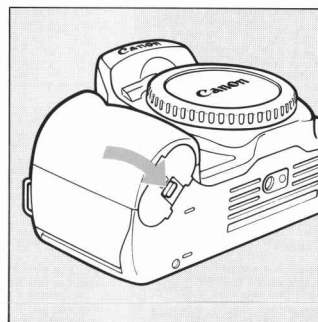
電池はリチウム電池/パック (2 CR5) 1個を使用します。



**1** 電池室開放レバーを矢印の方向にスライドさせて電池室の蓋を開けます。




**2** 電池の⊕⊖の接点をまちがえないようにして図のような向きで入れます。

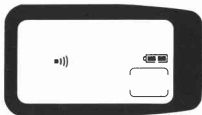


**3** 電池室の蓋を閉じます。

- ・撮影前に必ず電池をチェックしてください。
- ・ご旅行にお出かけのときや、写真をたくさん撮られるときは、万一の場合に備えて予備の電池をご用意ください。特に海外では地域によって電池の入手が困難なことがあります。

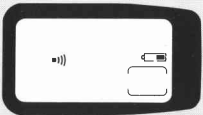
**4** モードダイヤルを **□** にセットして、電池をチャックします。

表示パネルに図のような電池マーク  が点灯すれば電池電圧は充分です。

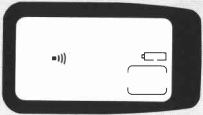


・表示パネルに何も表示されない場合は、電池が逆向きに入っています。正しい向きに入れ直してください。


・カメラを使用しないときはモードダイヤルを **し** にしてください。不用意なシャッターボタンの半押しによる電池の消耗と無駄写しを防ぎます。



半分の電池マークが点灯したとき：新品の電池をご用意下さい。



空の電池マークが点灯したとき：新品の電池に交換してください。



空の電池マークが点滅したとき：59頁を参照してください。

## ●リチウム電池 2 CR5 の寿命 (フィルム給送本数)

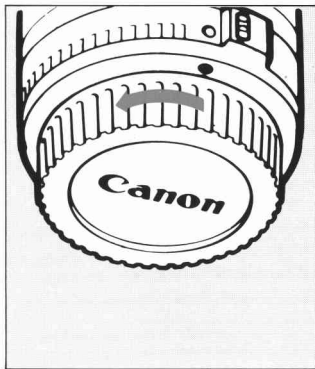
温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温 (+20°C)	75 本	30 本	12 本
低温 (-10°C)	45 本	20 本	8 本

\* 新品電池・EF 35-80 mmF 4-5.6 USMレンズ・24枚撮りフィルム使用

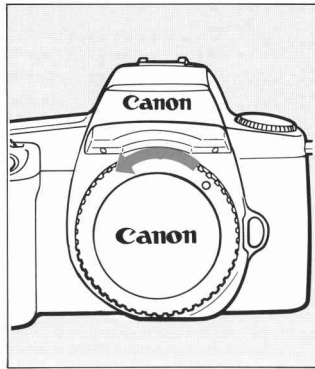
\* フィルム給送本数には、フィルムを入れずに空撮りした回数も含まれます。

\* 当社試験条件による

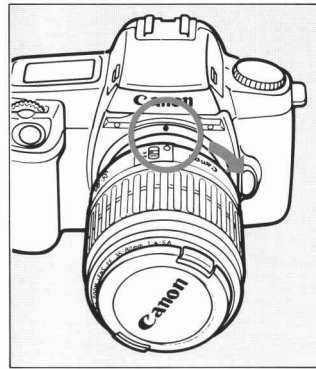
## 2. レンズの取り付け/取り外し



**1** レンズの底ぶたを矢印方向に回して外します。

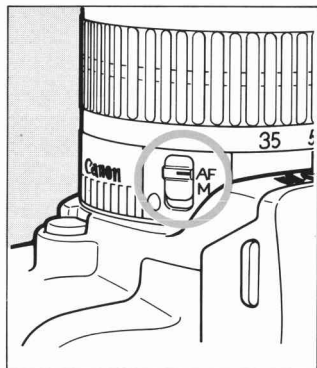


**2** ボディキャップを矢印方向に回して外します。



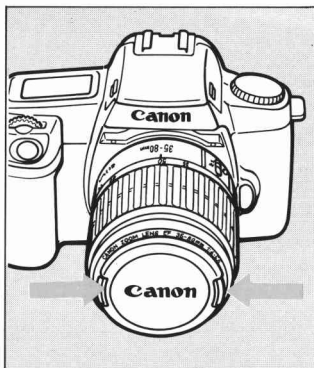
**3** レンズとカメラの赤マークを合わせて、レンズを矢印の方向にカチッと音がするまで回します。

- ・ レンズを外すときは、レンズ取り外しボタンを押しながら逆方向に回します。



**4** レンズのフォーカスモードスイッチをAFにセットします。

- Mになっているとオートフォーカスできません。
- オートフォーカス作動中は、レンズの回転部分に触れないでください。



**5** レンズキャップを外します。

EOSは、完全電子化マウントにより、専用のキヤノンEFレンズとの間でピント・露出調節のための情報交換を行なっています。他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常機能を発揮しないことがありますのでご注意ください。また、他社製品との組み合わせ使用に起因する事故、故障等につきましては保証いたしません。

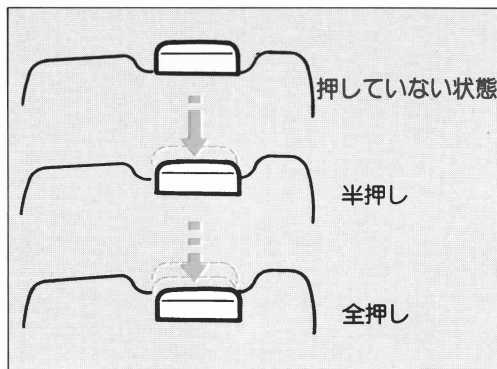
### 3. シャッターボタン押しに慣れましょう

EOS のシャッターボタンは二段階になっています。

シャッターボタンを軽く一段目まで押します。被写体にピントが合うと「ピピッ!」と、電子音が出てファインダー内と表示パネルにその時の露出情報（シャッター速度、絞り値）を表示します。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。

「半押し」の状態からさらに二段目まで押して撮影します。シャッターが切れて、フィルムを1コマ巻き取り、次の撮影に備えます。

手振れを防ぐために右手全体でグリップを握るような感じでゆっくりとシャッターボタンを押します。



指がシャッターボタンから離れている状態から一気にシャッターボタンを押すと、手振れを起こす原因になります。必ずシャッターボタン半押し状態から撮影してください。

## 4. オートフォーカスに慣れましょう



練習を始める前にモードダイヤルを **□** にセットします。

**1** ファインダーをのぞいて、中央のAFフレーム ( [ ] ) を被写体に合わせます。

・ズームレンズの場合はズームリングを回して、被写体の大きさを調整してみましょう。



**2** シャッターボタンを「半押し」します。

・被写体にピントが合うと「ピピッ」と電子音がします。

### 3 半押し状態からそのままさらにシャッターボタンを静かに押して撮影します。

ここまでの操作を何回か繰り返して練習してください。

- ・被写体が暗いとファインダー内表示ではシャッター速度やストロボマークが、表示パネルではシャッター速度が点滅します。

#### ファインダー内の表示

シャッターボタンを半押しして、被写体にピントが合うと、ファインダー内には合焦ランプおよびシャッター速度と絞り値が表示されます。なお、表示パネルにも露出表示（シャッター速度と絞り値）が現れます。

- ・合焦ランプが点滅するときはシャッターが切れません。49頁を参照してください。

#### シャッター速度の点滅（手振れ警告）

全自動およびイメージノーンでは、シャッター速度が手振れを起こす恐れのある速度になると、ファインダー内表示および表示パネルのシャッター速度が点滅して、手振れを警告します。

このようなときは、カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意して撮影するか、三脚の使用をおすすめします。

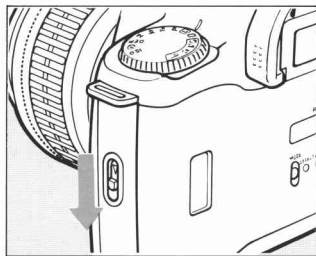


## [2] 撮影しましょう

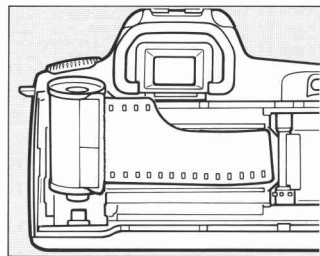
# 1. フィルムを入れましょう

このカメラは、撮影できるフィルム枚数が一目でわかるプリwind（Prewind）方式です。最初にフィルムを全部巻き取り、1枚撮るごとに巻き戻していきます。

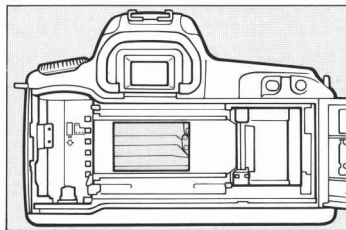
撮影ごとにフィルム枚数計の数字が減っていき、常に残っているフィルムの枚数が表示されます。また、フィルムの感度は自動的にセットされます。



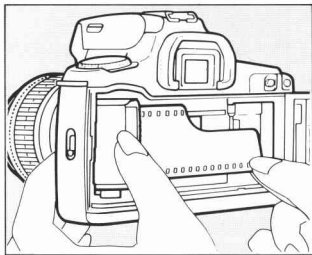
**1** 背蓋開放レバーを下げて背蓋を開きます。



**2** フィルムを図のように斜めにしながら入れます。

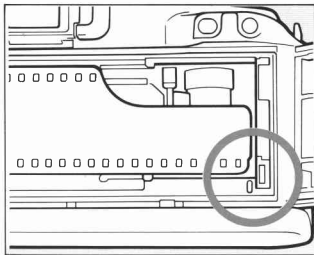


シャッター幕は非常に高い精度で作動しますので、絶対に手を触れないでください。また、フィルムを入れる際に誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように充分ご注意ください。



**3** パトローネ(フィルム容器)を押さえながら、フィルムがたるまないようにしてフィルムの先端をオレンジマークに合わせます。

- ・フィルムを引き出し過ぎたときはパトローネに少し巻き戻してください。



**4** フィルムの先端がオレンジマークに合っていることを確認して背蓋を閉じます。フィルムの巻き取りが始まり、フィルム枚数計の数字が増えていきます。最後にシャッターが切れるような音がして、表示パネルにフィルムマーク(●)と使用フィルムの枚数が表示されます。



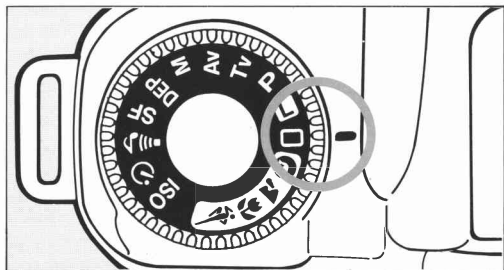
- ・フィルムマークが点滅した場合はフィルムが正しくセットされていません。背蓋を開けてフィルムを入れなおしてください。
- ・モードダイヤルが **L** (ロック) 位置では、フィルムの巻き取りはできません。

## 2. 撮影しましょう

### 1) □ (全自動) による撮影

全自動は、どのような被写体でも気軽に撮影することができるように、ピント合わせ、露出、フィルム送りなどの方法があらかじめ最適に組み合わされています。

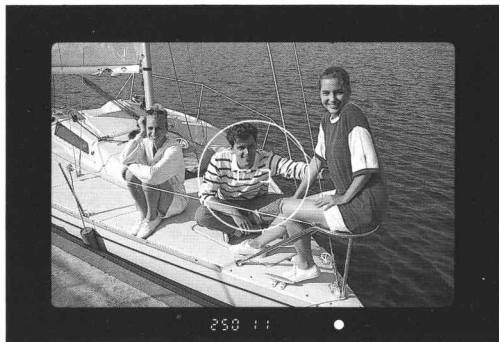
- それぞれの組み合わせ内容については 52 頁を参照してください。



**1** モードダイヤルを □ にセットします。

**2** ファインダーをのぞいて、中央の AF フレーム ( [ ] ) を被写体に合わせます。

- ズームレンズの場合はズームリングを回して被写体の大きさを変え、構図を決めます。



**3** シャッターボタンを軽く押します。ピピッ/という電子音と共に被写体にピントが合い露出が決まります。さらにシャッターボタンを押して撮影します。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。



- ファインダー内のストロボマークが点滅するときにはストロボを使用してください (→ 39 頁)。
- ズームレンズの場合、ピントを合わせた後はズームリングを回さないでください。

## 2) フォーカスロック撮影

このカメラはファインダー中央の AF フレームでピントを合わせる機構になっています。構図によっては被写体がファインダーの中央にこないときがありますが、そのようなときは次のフォーカスロック撮影を利用します。



**1** ピントを合わせる被写体に AF フレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。



**2** シャッターボタンを半押ししたまま構図を撮影する構図に変えて、さらにシャッターボタンを押して撮影します。

## 3) フィルムが終了すると

このカメラはフィルムが終わると、自動的にフィルムを巻き戻します。巻き戻しが終了すると、巻き戻しは自動的に止まり、表示パネルのフィルムマーク(Ⓞ)が点滅します。



・フィルムを途中で巻き戻す必要があるときは50頁を参照してください。

### 3. イメージゾーンでの撮影

イメージゾーンの撮影ではそれぞれにふさわしい測光方式や AF モードなどがあらかじめ組み合わされています。ご自分でセットすることはできません。

- ・それぞれの組み合わせ内容については 52 頁を参照してください。

- ・ファインダー内のストロボマークが点滅するときにはストロボを使用してください(→ 40 頁)。
- ・シャッター速度表示が点滅して手振れが警告されたら、カメラの構え方とシャッターの押し方に十分注意して撮影するか、三脚の使用をおすすめします。

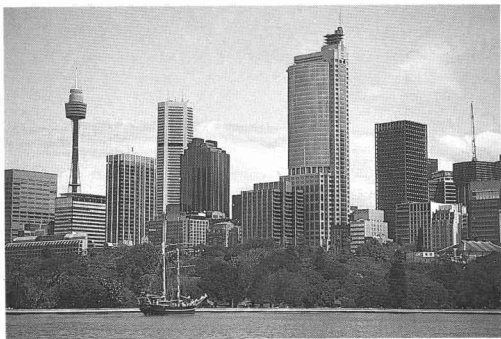


#### 1) (ポートレート)

背景をぼかして人物を浮き立たせて撮影するときにはセットします。

- ・シャッターボタンを押し続ければ連続撮影になります。

背景を効果的にぼかすには、頭から胸がファインダー内に一杯になるくらいに人物を大きく捉えてください。背景は人物からできるだけ離してください。望遠系のレンズを使用すると背景をより効果的にぼかすことができます。ズームレンズをお使いの方はレンズを望遠側(35-80 mm のレンズなら 80 mm)にして撮影してください。



## 2) 🏞️ (風景)

近景から遠景までを鮮明に撮影するときにセットします。ズームレンズをお使いの方はレンズを広角側（35-80mmのレンズなら35mm）にして撮影してください。近景から遠景までの奥行き感に加えて、横の広がりも表現することができます。



## 3) 📷 (クローズアップ)

レンズに内蔵されているマクロ機構を利用して、草花や昆虫などを大きく撮るときにセットします。使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影しましょう。

- ・ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影することができます。
- ・本格的なクローズアップ撮影にはマクロレンズの使用をおすすめします。

## 4.クォーツデート

このカメラには2019年までのオートカレンダーが組み込まれているクォーツデートがついています。撮影と同時に日付や時刻を写真に写し込むことができます。

### 1) 日付/時刻の写し込み

クォーツデート表示パネルには「年月日」が表示されています。そのまま撮影すると写真に日付が写し込まれます。

表示切り換えボタン(MODE)を押すと写真に写し込まれる表示が次のように変わります。

<年月日>表示 92 5 10 (1992年5月10日)



<日時分>表示 10 16 45 (10日16時45分)



<ハイフン>表示 ----- (写し込み無し)



<月日年>表示 5 10'92 (5月10日1992年)



<日月年>表示 10 5'92 (10日5月1992年)



### 4) ㊄ (スポーツ)

スポーツや運動会などの動きの速い被写体を撮るときにセットします。スポーツ撮影にはEF 80-200mm F 4.5-5.6 USMなどの望遠系のレンズをおすすめします。

- ・シャッターボタンを押し続けければ連続撮影になります。

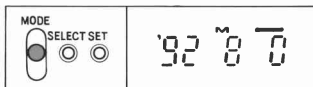
- ・ M は「月」を表します。
- ・ 一 は写し込みを確認するマークです。シャッターを切ると点滅して日付/時刻の写し込みを知らせます。
- ・ 一 が点滅しなくなったら、クォーツアタート用電池を交換してください (→ 25 頁)。

### 写し込みをしないとき

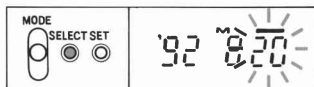
日付や時刻の写し込みをしないときは、表示切り換えボタンを押してクォーツアタート表示パネルに「----」を表示させます。

## 2) 日付/時刻の修正

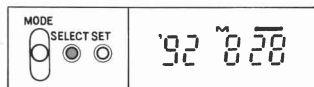
海外旅行などで日付や時刻を変更する必要があるときは次のようになります。



- 1 表示切り換えボタン (MODE) を押して、クォーツアタート表示パネルに修正する日付 (時刻) を表示します。



- 2 修正位置選択ボタン (SELECT) を押して修正する数字を点滅させ、数値セットボタン (SET) を押して正しい数字をセットします。

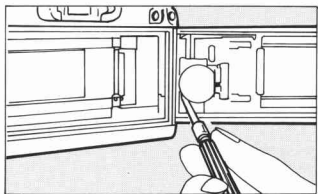
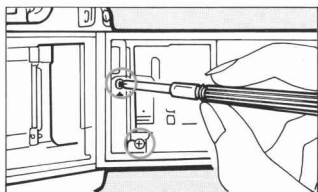


- 3 点滅している数字がなくなるまで、修正位置選択ボタン (SELECT) を押します。点滅している数字がなくなれば、セットは完了です。



- ・ 日付は表示パネルの表示と異なり、写真のように写し込まれます。





### クオートデート用電池の交換

クオートアート表示パネルが薄くなったら電池を交換してください。電池の寿命は約3年です。クオートアート用の電池はリチウム電池 CR 2025, 1個です。

- (1) 背蓋を開け、図に示す2本のねじをはずし、電池室の蓋を取り外します。
- (2) 電池を取り出します。
- (3) 新しい電池の+側を上にして入れ、電池室の蓋を取り付けます。
- (4) 日付と時刻をセットしなします。

## II 活用編

基本編では撮影の準備や練習、そして気軽に撮影できるイメージゾーンについてご説明しましたが、活用編ではクリエイティブゾーンでの撮影方法や、内蔵ストロボの使い方などについてご説明します。

# 1. クリエイティブゾーンでの撮影

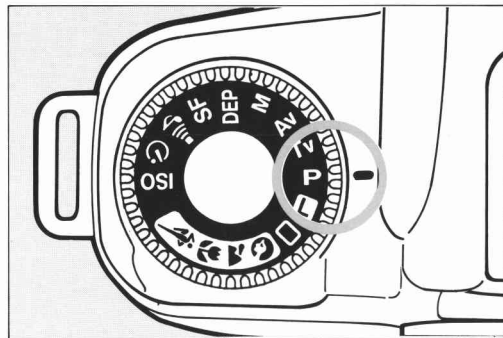
モードダイヤルのクリエイティブゾーンには、被写体や撮影目的に合わせて自由に選べる6通りの撮影方式があります。

クリエイティブゾーンでは、露出補正や多重露出など応用編で説明するさらに高度な機能を併用することができます。



## 1) P (プログラム AE)

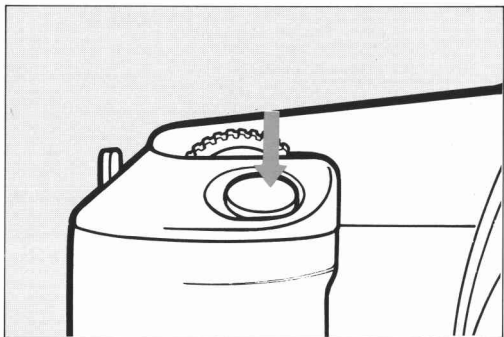
全自動同様、気軽に撮影するときのセット位置です。被写体の明るさに応じて撮影時のシャッター速度と絞り値の組み合わせを自動セットします。これをプログラム AE と呼びます。



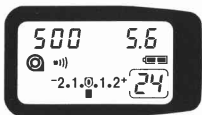
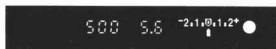
1 モードダイヤルをPにセットします。

### 露出表示の確認

露出表示が点滅したときは不適正露出となります。明るいところではNDフィルター（減光用）を、暗いところではストロボを使用してください。



**2** シャッターボタンを半押しし、露出表示を確認して撮影します。



クリエイティブゾーンでは、表示パネルやファインダー内に露出表示（シャッター速度と絞り値）のほか露出レベル目盛と露出レベルマークが表示されます。露出レベルマークは、露出補正量を表示しません。

## プログラムシフト

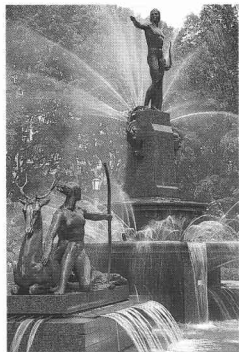
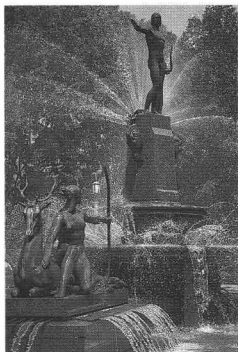
自動的にセットされたシャッター速度と絞り値の組み合わせ（プログラム）は、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトと呼びます。

シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り値が出るまで電子ダイヤルを回します。

- ・撮影後プログラムシフトは自動的に解除され、元のプログラムに戻ります。
- ・内蔵ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

## 6秒タイマー機能

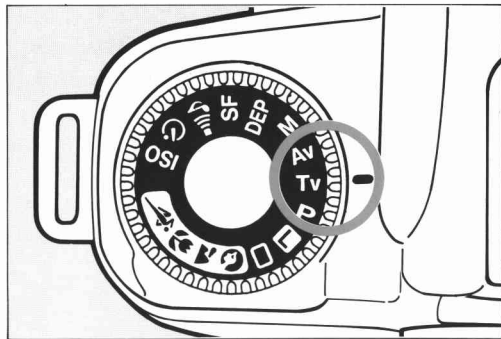
シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、表示パネルとファインダーの露出表示（シャッター速度と絞り値）は約6秒間表示されています。



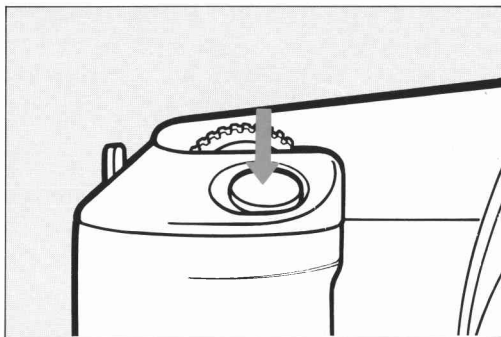
## 2) Tv (シャッター優先 AE)

動きを表現するときにはセットするモードです。シャッター速度をセットすると、被写体の明るさに応じて適正露出に必要な絞り値が自動的にセットされます。

シャッター速度を速くすれば動いている被写体をシャープに写し止めることができ、逆にシャッター速度を遅くすれば流動感を表現することができます。



- 1 モードダイヤルをTvにセットし、電子ダイヤルで希望するシャッター速度をセットします。



**2** シャッターボタンを半押しし，露出表示を確認して撮影します。



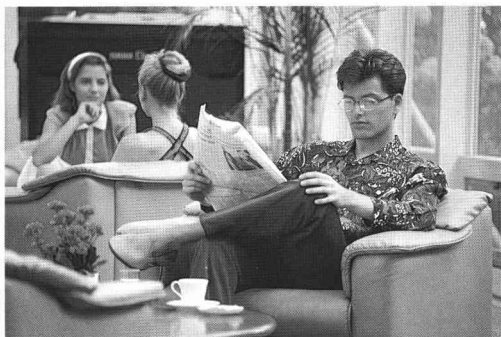
## 露出表示の確認



- (1) 使用レンズの開放絞り値が点滅する場合は露出アンダーです。点滅が止まるまで電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。



- (2) 使用レンズの最小絞り値が点滅する場合は露出オーバーです。点滅が止まるまで電子ダイヤルでシャッター速度を速くしてください。

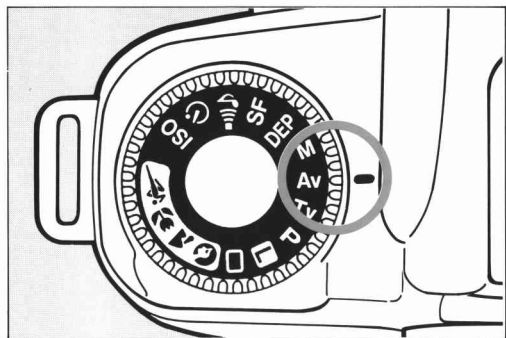


### 3) Av (絞り優先 AE)

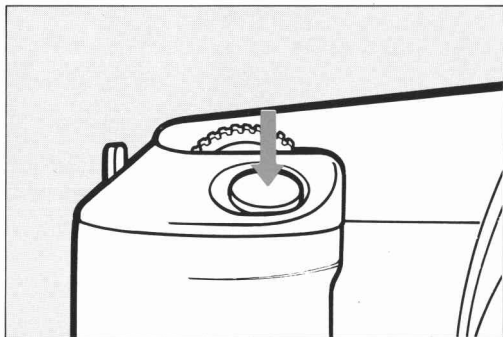
絞り値をセットすると、被写体の明るさに応じて適正露出を得るためのシャッター速度が自動的にセットされます。

絞り値を変更することによって被写界深度を浅くしたり深くしたりすることができます。背景をぼかした美しいポートレートを撮るときは、できるだけ絞り数値を小さくします。小さくすると背景のぼけぐあいはより効果的になります。

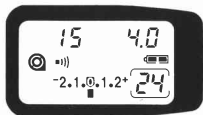
奥行きのある風景などをすみからすみまではっきり写すときは、絞り数値を大きくします。



- 1 モードダイヤルを Av にセットし、電子ダイヤルで希望する絞り値をセットします。



**2** シャッターボタンを半押しし、露出表示を確認して撮影します。



### 露出表示の確認



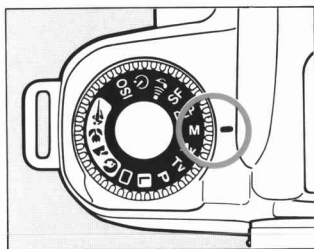
- (1) シャッター速度の30が点滅する場合は露出アンダーです。点滅が止まるまで電子ダイヤルを回して絞りを開いてください。



- (2) シャッター速度の2000が点滅する場合は露出オーバーです。点滅が止まるまで電子ダイヤルを回して絞りを閉じてください。

#### 4) M (マニュアル露出)




マニュアル露出では、シャッター速度と絞り値を自由に決めることができます。



#### 1 モードダイヤルをMにセッ ットします。

- ・シャッター速度は電子ダイヤルでセットします。
- ・絞り値は露出補正ボタンを押しながら電子ダイヤルでセットします。

#### 2 シャッターボタンを半押しし、露出表示を確認して撮影します。

- ・表示パネルおよびファインダー内に、, , のいずれかが表示されます。意味は次の通りです。

マニュアル露出レベルマークに従って露出を調整します。



適正露出：適正露出です。

- ・露出を決定するときはこの位置を基準にします。



露出オーバー：適正露出になるまで絞りを閉じます。

- ・最小絞り値まで閉じても適正露出にならないときは、シャッター速度を速くします。



露出アンダー：適正露出になるまで絞りを開きます。

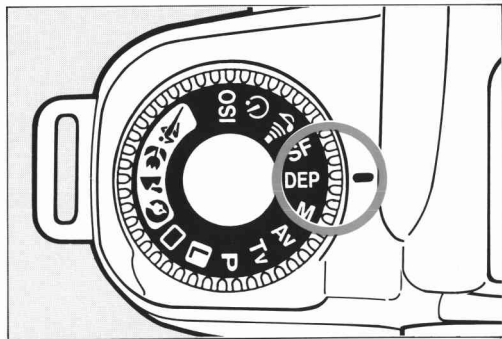
- ・絞りを開放まで開いても適正露出にならないときは、シャッター速度を遅くします。
- ・始めに絞り値を決めてからシャッター速度で露出調整することもできます。



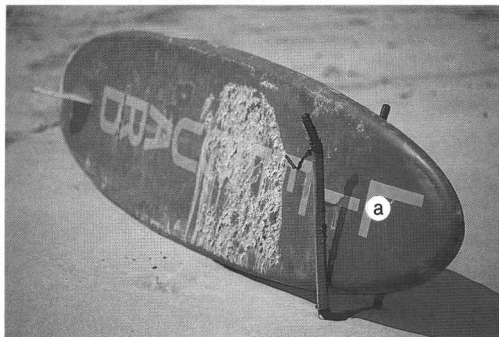


## 5) DEP (深度優先 AE)

風景写真や多人数の記念写真などを撮るとき、被写界深度（はつきり写る範囲）を自分で決めて撮影することができます。

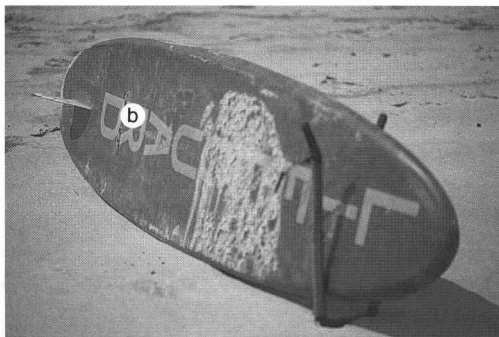


- 1 モードダイヤルを DEP にセットします。



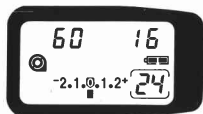
**2** AF フレームを1点目(a)に合わせ、シャッターボタンを押します。

- ファインダー内の合焦ランプが点灯しファインダー内と表示パネルに dEP 1 と表示されたら、シャッターボタンから指を離します。



**3** AF フレームを2点目(b)に合わせ、シャッターボタンを押します。

- ファインダー内の合焦ランプが点灯しファインダー内と表示パネルに dEP 2 と表示されたら、シャッターボタンから指を離します。



## 4 構図を決めシャッターボタンを半押しし、露出表示を確認して撮影します。

- ・前方 (a) から後方 (b) までを被写界深度内に入れるために必要な絞り値と、それに対応したシャッター速度が表示パネルとファインダー内に表示されます。

### 露出表示の確認

絞り値が点滅する場合は、希望どおりの被写界深度が得られませんが露出は適正です。このような場合はレンズを広角にするか、被写体から離れて再度 2 から 4 の操作をしてください。

- ・深度優先 AE を操作途中で解除するときは、モードダイヤルを DEP 以外にセットします。
- ・ズームレンズを使用しているときは、1 点目のピントを合わせた後で焦点距離を変えないでください。
- ・被写界深度を深くしたいときは、広角レンズをお使いになることをおすすめします。

ポートレート写真を撮るときに、1 点目と 2 点目のピントを人物の同じ部分で合わせると背景がぼけた雰囲気の良い写真を撮ることができます。また人物の背景を効果的にぼかすには背景から人物をできるだけ離すことです。

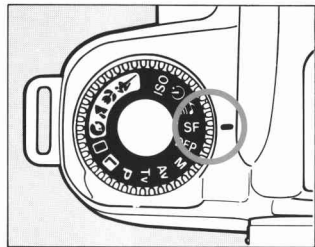
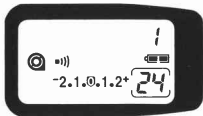
ポートレートの撮影には望遠レンズの使用をおすすめします。

- ・深度優先 AE ではストロボ併用撮影はできません。併用した場合はプログラム AE でのストロボ使用と同じになります。

## 6) SF (ソフトフォーカス)

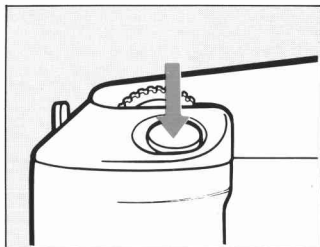
ポートレート撮影などのとき、被写体をやわらかな雰囲気で見せるときにセッとするソフトフォーカスモードで、1度の撮影で同一フィルム面上に2回連続露光(二重露光)してソフトフォーカス効果を得ます。

- ・1回目でピントの合った露光を、続く2回目の露光でソフト効果のある露光をします。
- ・ソフトフォーカスの度合いは弱/強の2段階あり、表現に応じて電子ダイヤルで選択することができます。
- ・レンズのフォーカスモードスイッチがMになっていると、ソフトフォーカスモードをセッしても通常のP(プログラムAE)撮影になります。



1 モードダイヤルをSFにセッします。

- ・表示パネルにソフトフォーカス弱を示す1が表示されます。電子ダイヤルを右回転するとソフトフォーカス強になり、表示パネルにソフトフォーカス強を示す2が表示されます。ソフトフォーカス弱に戻すには、電子ダイヤルを左に回転させます。



## 2 シャッターボタンを半押し、シャッター速度とソフトフォーカス値を確認して撮影します。

- ・シャッターボタンを半押しすると、表示パネルに2回目のシャッター速度ソフトフォーカス値が表示されます。
- ・さらにシャッターボタンを押して撮影すると、表示パネルに1回目と2回目のシャッター速度が続けて表示されます。
- ・ストロボ撮影時は1回目の露光時のみ発光します。
- ・ストロボ撮影の場合、ソフトフォーカス効果が得られないことがあります。

### 露出表示の確認

ソフトフォーカス値が点滅する場合は希望どおりのソフトフォーカス効果が得られません、露出は適正です。このような場合はレンズを望遠側にするか、被写体から離れて再度撮影してください。




### 効果的なソフトフォーカス撮影

ズームレンズの望遠側を使用するか、焦点距離の長いレンズを使用してください。

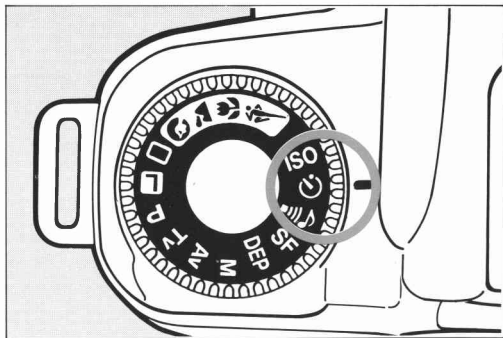
- ・ソフトフォーカス撮影は二重露光なので被写体はほぼ静止している必要があります。
- ・ポートレート撮影の場合はソフトフォーカス値1(弱)が適しています。また白壁のような明るい単調な背景は避けるようにしましょう。
- ・EF 300 mm F 2.8 L など撮影距離範囲切り換えスイッチがついているレンズは撮影距離範囲を指定しないでお使いください。


## 7) (セルフタイマー)

セルフタイマーで自分自身を入れた写真を撮るときは、三脚をお使いください。

- 1 モードダイヤルを  にセットします。
- 2 構図をきめ、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせ露出を確認します。
- 3 ファインダーをのぞいたままシャッターボタンを押します。  
電子音が鳴り、10秒後にシャッターが切れます。

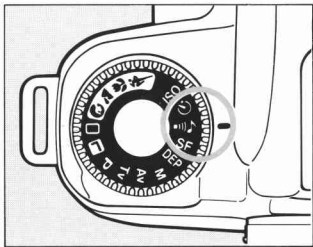
最初ゆっくり (2回/秒) ビッ、ビッ → 8秒間  
次に早く (8回/秒) ビッビッビ → 2秒間



- カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。
- セルフタイマーを途中で解除するときは、モードダイヤルを  以外にセットします。
- 露出は P と同じプログラム AE で制御されます。

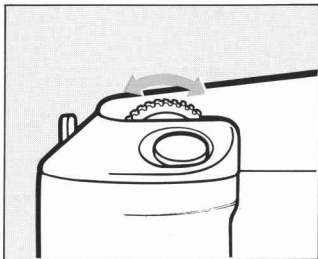
## 8) 音 (サウンドセット)

ピントが合ったときの「ピピッ!」という電子音を消したり、セルフタイマー作動中の音を4種類の中から選ぶことができます。



**1** モードダイヤルを 音 にセッットします。

- ・表示パネルに 音 が表示されます。



**2** 電子ダイヤルで希望する音の番号をセッットします。

- ・表示パネルに表示される番号の内容は右のとおりです。
- ・表示パネルに番号を表示した状態でシャッターボタンを押すと、その番号の音を確認することができます。

番号なし：合焦時の電子音を消す

- 1：電子音
- 2：ビバルディ作曲「四季／春」
- 3：ベートーベン作曲「トルコ行進曲」
- 4：バッハ作曲「メヌエット」

### 音の鳴り方

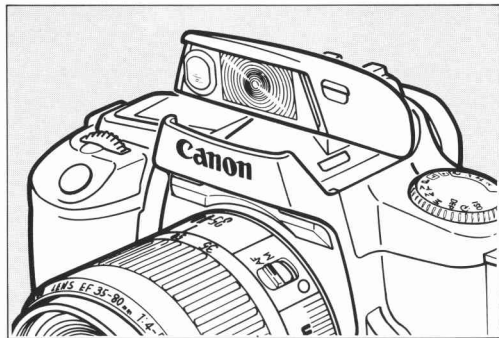
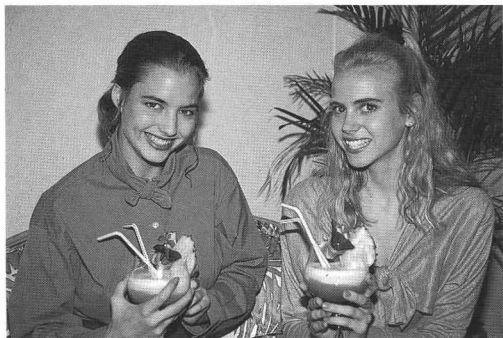
電子音の場合：

始めの8秒間→ゆっくり (2回/秒)  
最後の2秒間→早い (8回/秒)

音楽の場合：

始めの9秒間→音楽  
最後の1秒間→早い電子音 (8回/秒)

## 2. ストロボ撮影



イメージゾーンで撮影中ファインダー内にストロボマークが点滅したら、ストロボ撮影にしてください。

ストロボを上げると、ストロボのスイッチが入ります。

イメージゾーンでは、被写体が暗いときや逆光のときに自動発光し、クリエイティブゾーンでは常に発光するストロボ調光撮影になります。

- ストロボを上げるときは、ストロボつまみに指先をかけて静かに引き上げます。収納するときはストロボを静かに押し下げます。
- ストロボを上げるとストロボの充電が始まり、完了するとファインダー内のストロボマークは点灯したままになります。



## ストロボ撮影と赤目緩和撮影

人物をストロボ撮影すると被写体の目が赤く写ってしまうことがあります。これを赤目現象と言います。

☐ (全自動) および 📷 (ポートレート) 📷 (セルフタイマー) の場合、ストロボ撮影時に赤目が出やすい状況になると、赤目緩和ランプが点灯して赤目緩和撮影が自動セットされます。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内表示が約2秒間点滅して赤目緩和ランプが点灯します。このファインダー内表示の点滅が通常の表示に戻ってからさらにシャッターボタンを押して撮影します。



- ・シャッターボタン半押し中、赤目緩和ランプは点灯しています。
- ・写される人が赤目緩和ランプを見るようにすると効果がありますが、効果の度合いには個人差があります。
- ・撮影せずにシャッターボタンから指を離すと赤目緩和ランプは消えます。

- ・焦点距離 35 mm 未満のレンズを使用すると、画面の周辺が光量不足になります。
- ・EF 50 mm F 1.0 L などの大口径レンズを使用すると、画面の下部が光量不足になります。
- ・レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラれてしまいます。内蔵ストロボを使用するときは必ずレンズからフードを外してください。
- ・内蔵ストロボと外付けストロボを併用することはできません。

EF 35-80 mm, F 4-5.6 USM レンズの最至近 0.37~0.7 m 未満でストロボ撮影を行うと、レンズ先端によって画面がケラれます。ストロボ撮影は、0.7 m 以上の距離で行ってください。

## ストロボ調光連動距離範囲

(EF 35-80 mm F 4- 5.6 USM を使用した場合)

ISO	WIDE		TELE	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	0.7~5m	1 ~3.5m	0.7~3.5m	1 ~2.5m
400	0.7~10m	1.5~7m	1 ~7m	1.5~5m

## ストロボ撮影時における露出表示の確認

撮影モード	警告表示	意味	備考
Tv(シャッター優先 AE)	使用レンズの最少絞り値が点滅する。	背景が露出オーバーになります。	被写体は適正露出です。
	使用レンズの解放絞り値が点滅する。	背景が露出アンダーになります。	被写体は適正露出です。
Av(絞り優先)	シャッター速度 1/90 が点滅する。	背景が露出オーバーになります。	被写体は適正露出です。 絞り値を変えるとシャッター速度が点灯に変わることがあります。
	シャッター速度 30" が点滅する。	背景が露出アンダーになります。	被写体は適正露出です。 絞り値を変えるとシャッター速度が点灯に変わることがあります。

## 同調シャッター速度と絞り値

撮影モード	同調シャッター速度	絞り値
P(プログラム AE)	1/90 秒に自動セットします。	TTL プログラムによる調光絞り値を自動セット (内蔵ストロボ) します。
Tv(シャッター優先 AE)	1/90 秒以下の任意のシャッター速度を手動でセットします(*)。	セットしたシャッター速度に対し、明るさに応じて絞り値を自動セットします。
Av(絞り優先)	セットした絞り値に対し、明るさに応じて 30"~1/90 秒を自動セットします。	任意に絞り値を手動セットします。
M(マニュアル)	1/90 秒以下の任意シャッター速度を手動でセットします(*)。	任意の絞り値を手動セットします。

(\*)1/90 秒以上にセットした場合は、自動的に 1/90 秒にセットされます。

## III 応用編

撮影目的や撮影状況に合わせ EOS の機能をさらに細かく調整して、創造的な写真を撮ることができます。

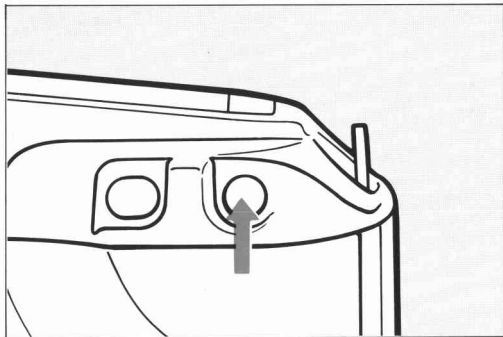
- ・ここで説明している各機能は全自動およびイメージゾーンでは使用できません。

# 1. 部分測光

EOS は被写体と背景との明るさの差や、被写体の大きさを考慮して適正露出を決定する評価測光方式を採用しています。被写体が逆光のときや、晴れた日の雪原などでもきれいな写真が撮れます。しかし、スポットライトで照明されたステージなど、被写体と背景とのコントラスト(明暗差)が極端に強い場合、構図によっては被写体が適正露出にならないことがあります。そのようなときには部分測光ボタンをご利用ください。部分測光ボタンを利用すれば構図を変えても露出は変わりません。



- 1 構図を決めてピントを合わせ、シャッターボタンから指を離します。



**2** 部分測光範囲マークを適正露出にしたい被写体に合わせ、部分測光ボタンを押したまま、再度シャッターボタンを半押しします。

- ・ファインダー内に★が表示され、部分測光状態になったことを示します。★が表示されたら、部分測光ボタンから指を離してもかまいません。露出はロックされています。



**3** シャッターボタン半押しのまま構図を戻して撮影します。

- ・露出はシャッターボタン半押しの間はロックされており、変わりません。

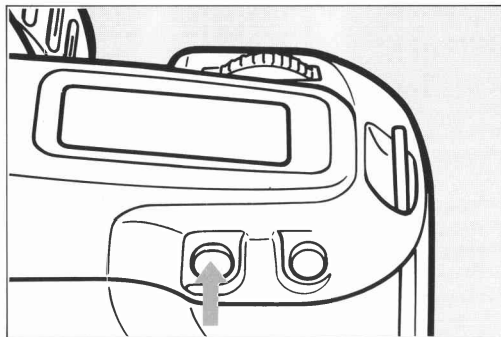
## 2. 露出補正

AE撮影時の露出を撮影意図に合わせて微妙に補正することができます。補正量は1/2段ステップで、+2.0段から-2.0段の範囲です。

**1** 露出補正ボタンを押しながら電子ダイヤルを回し、露出レベルマークを露出レベル目盛の希望する補正量に合わせます。

- ・ +はオーバー側への補正、-はアンダー側への補正です。
- ・ 露出補正は撮影モード、測光モードに関係なく使用できます。

露出アンダー 露出オーバー

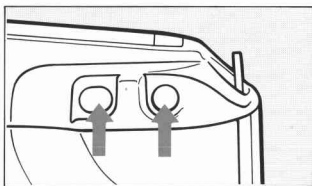


**2** 撮影します。

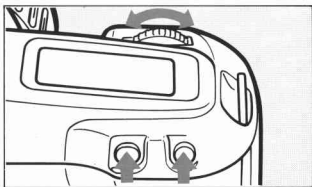
- ・ 撮影終了後、1の手順に従って露出補正を解除します。
- ・ モードダイヤルを全自動あるいはイメージゾーンのいずれかにセットすると露出補正は解除されます。

# 3. 多重露出(ME)

多重露出を使用すれば、同一フィルム面上に画像を重ねて撮影できます。



**1** 露出補正ボタンと部分測光ボタンを同時に押して、表示パネルに ME を表示します。



**2** 露出補正ボタンと部分測光ボタンを押したまま、電子ダイヤルで多重露出回数をセットします。



- 多重露出回数は9回までセットできます。
- 撮影前に多重露出を解除するときは、多重露出回数表示を1に戻します。

**3** 撮影します。

- 多重露出撮影中は表示パネルの ME が点滅します。
- セットした多重露出回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ、多重露出のセットは解除されます。
- 撮影の途中で多重露出を解除するときは1, 2の手順で多重露出回数表示を空白にします。

## 撮影ヒント

同一画面上に何度も露出を与える多重露出撮影では、露出値を最初に補正しておく必要があります。露出補正を併用してください(→44頁)。

多重露出の回数	補正量の目安
2回	-1.0
3回	-1.5
4回	-2.0

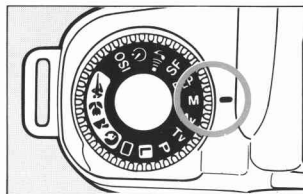
- この補正量はあくまでも一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わりますので、あらかじめ撮影アートを求めておいてください。

## 4.バルブ（長時間露出）撮影



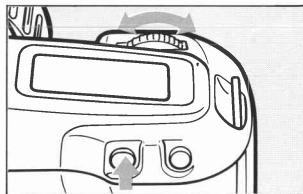
シャッターボタンを押している間シャッターが開いたままになります。夜景や花火など長時間の露出が必要なときにご使用ください。

バルブ撮影ではカメラが動かないよう三脚を使用してカメラをしっかり固定してください。



**1** モードダイヤルをMにセットします。

**2** 電子ダイヤルでシャッター速度をbuLb（バルブ）にセットします。30"の次がbuLbです。



**3** 露出補正ボタンを押しながら電子ダイヤルを回し、希望する絞り値をセットします。

**4** 撮影します。

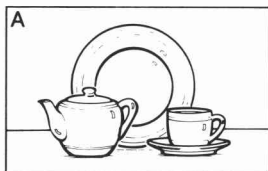
- ・ファインダー内のbuLb表示は消えます。
- ・バルブ撮影と多重露出を併用することができます。



## 5. オートフォーカスができないとき (手動ピント合わせ)

次のようなものにはピントが合わないことがあります。ピントが合わないときはファインダー内の合焦ランプが点滅します。そのような場合は手動でピントを合わせます。

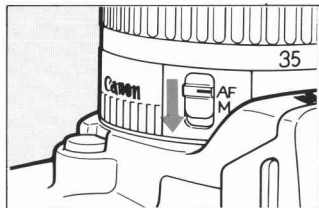
- 1) コントラスト (明暗差) が極端に低いもの (例: A)
- 2) ブラインドなどのように縦線のないもの (例: B)
- 3) AF フレームの中に遠・近のものがあるとき (例: C)
- 4) 非常に暗いところにあるもの
- 5) 極端に逆光状態にあつて、反射の強いもの
- 6) 高速で移動するなど、安定して測距できないもの



以上の場合、被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影するか、次の手順で手動でピントを合わせてください。

また、ストロボを上げておくと、

AF フレームで捉えた被写体が暗すぎたり、コントラストがない場合は、自動的に AF 補助光が光ってピントを合わせやすくします。



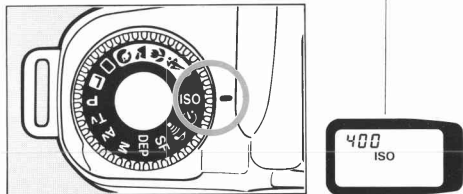
**1** レンズのフォーカスモードスイッチを M (MANUAL: 手動) にセットします。

**2** レンズの手動フォーカスリングを回して、ピントを合わせます。ぼけがなくなり、被写体がはっきり見えればピントが合った状態です。

## 6. フィルム感度の手動セット

DX マークのないフィルムを使用するときや、任意のフィルム感度をセットするときには、次の手順に従って手動でフィルムの感度をセットします。セットできる ISO の範囲は 6~6400 です。

- DX マーク付きのフィルムをカメラにセットするか、フィルム感度を手動セットしなおすまでは、それまでにセットされているフィルム感度で撮影されます。



**1** モードダイヤルを ISO にセットします。

- 表示パネルに ISO とフィルム感度を示す数字が表示されます。

**2** 電子ダイヤルを回してフィルム感度値をセットします。

**3** モードダイヤルのセットを戻します。

## 7. フィルムの途中巻き戻し

フィルムを最後まで撮り終わる前にカメラから取り出すときは、次の方法でフィルムを巻き戻してから取り出します。

- 1 レンズをカメラボディから外します。
  - 2 モードダイヤルを ISO にセットします。
  - 3 露出補正ボタンと AE ロックボタンを同時に押します。
- フィルムの巻き戻しが始まり、シャッターが切れるような音と同時に巻き戻しが終了し、フィルムマークが点滅します。

### ◀注意▶

- 上記の操作によらず、撮影の途中で背蓋を開きフィルムを強制的に引き出した場合は一度背蓋を閉じて必ず一回シャッターをリリースして下さい。
- リリースを行わないで次の新しいフィルムを装填し背蓋を閉じると、フィルムがパトローネ内に巻き込んでしまう場合があります。

# IV 資料編

# 1. 撮影機能の組み合わせ一覧

撮影モード	各機能の組み合わせ内容					
	オートフォーカス		フィルム巻き上げ		測光方式	
	ワンショット	AIフォーカス	一枚撮り	連続撮影	評価測光	部分測光
□ (全自動)		●	●		●	
👤 (ポートレート)	●			●	●	
🏞️ (風景)	●		●		●	
📷 (クローズアップ)	●		●			●
🏃 (スポーツ)		●		●	●	
P (プログラム AE)		●		●	●	
Tv (シャッター優先 AE)		●		●	●	
Av (絞り優先)		●		●	●	
M (マニュアル)		●		●	中央部重点平均測光	
DEP (深度優先 AE)	●		●		●	
SF (ソフトフォーカス)	●		●		●	
🕒 (セルフタイマー)	●		●		●	

## 2. AFモードとフィルム巻き上げの関係

フィルム巻き上げ	ワンショット	AIフォーカス
一枚撮り	AF完了まで撮影不可, AF完了と同時にAFロック(ピント位置ロック)および評価測光状態でAEロック(撮影前に露出の値を記憶).	AFは被写体の動きに合わせて追従, 露出はシャッターを切る瞬間に決定.
連続撮影	上と同じ条件で連続撮影となる(秒間最高約1コマ).	上と同じ条件で連続撮影となる. AFは連続撮影中も作動(秒間最高約1コマ).

# 3. 露出警告一覧表

撮影モード	表示警告例(点滅)	意 味	備 考
P(プログラム AE)	 シャッター速度 30"と、使用レンズの開放絞り値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	 シャッター速度 2000 と、使用レンズの最少絞り値	被写体が明るすぎます。	減光用の ND フィルターを使用してください。
Tv(シャッター優先 AE)	 使用レンズの開放絞り数値	露出アンダーになります。	電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。
	 使用レンズの最小絞り値	露出オーバーになります。	電子ダイヤルでシャッター速度を早くしてください。
Av(絞り優先)	 シャッター速度 30"	露出アンダーになります。	電子ダイヤルで絞り値を小さくしてください。
	 シャッター速度 2000	露出オーバーになります。	電子ダイヤルで絞り値を大きくしてください。
DEP(深度優先 AE)	 セットされた絞り値	希望する被写界深度がえられません。	1)被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2)ズームレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
	 シャッター速度 30"と、使用レンズの開放絞り値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	 シャッター速度 2000 と、使用レンズの最少絞り値	被写体が明るすぎます。	減光用の ND フィルターを使用してください。

# V アクセサリー（別売）

## 1. 専用キヤノンストロボ（別売）

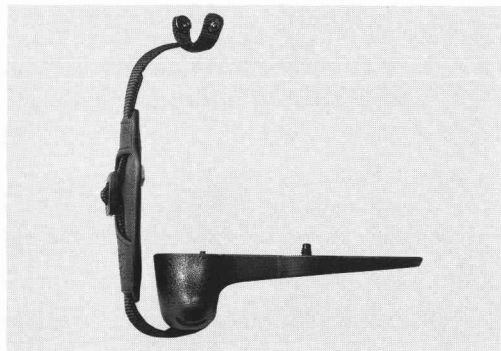
専用スピードライトとして、アクセサリーシューに取り付けて使用するクリップオンタイプの大光量ズームストロボ 430 EZ（最大ガイドナンバー 43/ISO 100・m）、300 EZ（最大ガイドナンバー 30/ISO 100・m）などがあります。

このカメラにはキヤノンのEOS専用ストロボを使用されることをおすすめします。特に他社の特定のカメラ専用とされているストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持つ）およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。



## 2. 延長グリップ GR-70

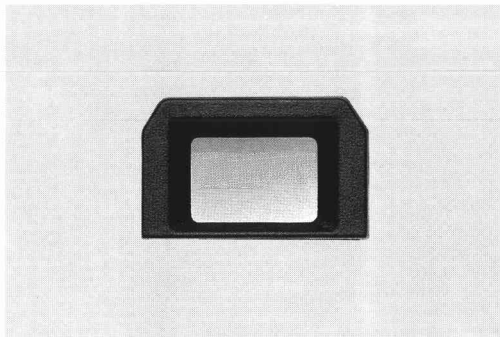
甲当てがついている専用延長グリップは、カメラのグリップを大型化しホールド性を高めます。



### 3. 視度補正レンズ

視度補正レンズEを取り付ければ、近視、遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。カメラ本体の視度はマイナス1ジオプターですが、交換用視度補正レンズとして10種類が用意されています。実際にカメラに取り付けてのぞいて確かめてから選んでください。

- ・視度補正レンズに表示されている数値はカメラに装着した場合の視度を表わしています。視度補正レンズ単体の視度数値ではありません。



### 4. レンズフード

レンズフードは撮影に有害な光線をカットするのに有効です。

### 5. フィルター

フィルターは撮影に有害な光線をカットしたり、特殊な効果を得るときにレンズの先端にねじ込んで使用します。

- ・フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。
- ・偏光フィルターを使用するときは、キヤノン円偏光フィルターPL-Cをお使いください。



# VI 取り扱い上のご注意

## 1. お手入れの方法

どんなに優れたカメラでも適切な手入れをしなければ、その性能を十分に発揮できません。特に水分や砂がカメラについてままだと、日常のお手入れには十分気をつけてください。

手入れ用具：ブローブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、高分子クロス等

### 1) レンズとファインダー接眼部

ブローブラシで砂やほこりを吹き払い、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭き取ってください。

2) カメラの反射ミラー、フォーカシングスクリーン  
ブローブラシで吹き払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、最寄りのキャノンサービスセンターにお持ちください。

### 3) フィルム室内

フィルムカスなどが付きやすいので、常にゴミをブローブラシで吹き払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムを傷つける原因となります。

### 4) レール面や圧着板

クリーナー液とクリーニングペーパーを使用して拭いてください。

- ・シャッター幕には絶対に手を触れないようご注意ください。
- ・海辺で使用した後は、カメラに塩分や砂が付着していますので特によく拭いてください。
- ・エアポンベタイプのブローのご使用はお勧めできません。

## 2. 保管の方法

カメラケースを外し、湿気やほこりのないところに保管してください。また、カメラは長期間使用しないでおくとかびや故障の原因となることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。特に保管する場合、次のような場所は避けてください。

- 1) 車のトランクやリヤウィンドーなどは高温になり、故障の原因となることがあるため避けてください。
- 2) 実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。  
長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。  
長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

## 3. その他の注意事項

### 1) 表示パネルについて

カメラの表示パネルは液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用で5年程度経過すると表示が薄くなり読みにくくなることがあります。その場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください（有料）。

なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60°Cぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

### 2) 空の電池マークの点滅について

電池電圧が極端に低下した場合や、カメラが誤動作・故障した場合は、表示パネル上で空の電池マークが点滅することがあります。以下の操作を行ってください。

- (1) 電池を入れ直して、電池電圧を確認してください。もし電池電圧が低下していれば電池を交換してください。
- (2) 一度シャッターを切ります。  
以上の操作を行って、空の電池マークの点滅が消えれば、正常に撮影を続けることができます。しかし、この操作を何度繰り返しても空の電池マークの点滅が消えないときはカメラの故障です。最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。

### 3) リチウム電池について

カメラはリチウム電池/パック(2CR5, 1個)を正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池電圧を確認してください。

(1) 電池を交換したとき

(2) 長期間カメラを使用しなかったとき

(3) シャッターが切れなくなったとき

(4) 寒冷地で撮影するとき

(5) その他、大切な写真を撮るとき

- ・電池をカメラに入れるときは、電池接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- ・電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- ・この電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れ保管しながら交互に使用することをおすすめします。

### 4) 電圧の低下とカメラの作動について

表示パネルの電池マークが点滅しても、シャッターが切れれば写真は適正露出になります。但し、電池電圧が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。新品の電池に交換してください。

### 5) 電子接点について

レンズを外したときは、電子接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置いてください。

### 6) 取り扱い上のご注意

- ・このカメラは防水構造になっていませんので雨天下や水中では使用できません。万一水にぬれてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固く絞ったきれいな布でよく拭きとってください。
- ・カメラには高電圧回路が内蔵されています。危険ですので絶対に自分で分解しないでください。

# 主要性能表

型式：ワインダー・ストロボ・オートテート内蔵 35 mm フォーカルプレーンシャッター AF/AE一眼レフカメラ

画面サイズ：24×36 mm

使用レンズ：EFレンズ群

レンズマウント：キヤノン EF マウント（完全電子制御方式）

視野率：上下左右とも 90 %

倍率：0.75 倍（50 mm レンズ・無限遠）

標準視度：-1 ジオプター（アイポイント 20 mm）

フォーカシングスクリーン：固定式、AF フレーム・部分測光範囲マーク付き全面マトリクススクリーン

撮影モード：①マニュアル

②ソフトフォーカス

③深度優先 AE

④絞り優先 AE

⑤シャッター優先 AE

⑥プログラム AE（シフト可）

⑦全自動

⑧イメージゾーン（4 種内蔵）

⑨ストロボ AE（内蔵ストロボおよび専用スピードライトを使用して A-TTL および TTL プログラムフラッシュ AE）

手振れ警告：全自動、イメージゾーン時に作動。自動的にセットされたシャッター速度が使用レンズの1/焦点距離マイナス 0 ~ 0.5 段以下となった場合にシャッター速度の点滅で警告

測光範囲：EV 2 ~ 20（常温常湿）50 mm F 1.4 レンズ使用換算，ISO 100）

使用フィルム感度：ISO 6 ~ 6400，DX コード自動対応（ISO 25 ~ 5000）

露出補正：1/2 段ずつ ± 2 段

多重露出：9 回まで予約可能。予約回数撮影後、自動的に解除

AF 制御方式：①ワンショット AF/測距完了にて停止，測距完了後にレリーズ可能

② AI フォーカス/全自動のプログラムでワンショット AF，AI SERVOAF を自動切り換え

③ マニュアル/フォーカスモードスイッチを M にし，手動フォーカスリングを回すことにより可能

AF 測距輝度範囲：EV 1 ~ 18（ISO 100）

AF 補助光：内蔵 AF 補助光を自動的に投光（内蔵ストロボおよび専用ストロボ使用時）

シャッター：縦走りフォーカルプレーン式全速電子制御シャッター

シャッター速度：1/2000 ~ 30 秒およびバルブ，X 接点は 1/90 秒（1/2 段ずつのセット可能）セルフタイマー：電子制御式（時限約 10 秒）

フィルム装てん：自動，フィルムセット後背蓋を閉じると，全部巻き取るプリワインド方式

サウンドセット：電子音，ビバルディ「四季/春」，ベートーベン「トルコ行進曲」，バッハ「メヌエット」より選択可

フィルム巻き上げ：自動巻き上げ

①一枚撮り

②連続撮影（秒間最高約1コマ）

巻き戻し：自動巻き戻し

内蔵ストロボ：ペンタ部内蔵手動リトラクタブル・並列制御式、TTL自動調光ストロボ

①ガイドナンバー：14（ISO 100・m）

②充電時間：約2秒

③照射角：焦点距離35mmをカバー パララックス補正；下方向2°

フラッシュ接点：X接点/アクセサリシュー部に直結接点あり

電源：リチウム電池2CR5 1個

電池容量確認：モードダイヤルのLとISO以外のポジションで可

大きさ：148（W）×99.8（H）×69（D）mm

重量：470g（ボディのみ、リチウム電池2CR5を除く）

## 写し込み機能

方式：液晶表示表示式 クォーツデジタル時計内蔵オートカレンダー

（西暦2019年まで、うるう年自動修正）

時計機構：常温20°C下で月差  
±120秒以下

写し込みデータ：①年・月・日

②日・時・分

③写し込み無し

④月・日・年

⑤日・月・年の5通り

文字形状：5×7のドットマトリックスによる

写し込みの色：オレンジ色

電源：リチウム電池CR20251個、寿命約3年



### アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために不可欠な部品)は、日本国内において、7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも

- 修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、裏表紙記載の当社サービス機関にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

レンズ		EF 35-80 mmF 4-5.6 USM	EF 35-105 mmF 4.5-5.6 USM
画角	対角線	63°~30°	63°~23°30'
	垂直	38°~17°	38°~13°
	水平	54°~25°	54°~19°20'
レンズ構成枚数		8群8枚	12群13枚
最小絞り		22~32	22~27
撮影距離範囲		0.38 m~∞	0.85 m~∞
最大撮影倍率と画界		35 mm : 0.12× (212×328 mm)	35 mm : 0.05 (443×667)
		80 mm : 0.25× (97×144 mm)	105 mm : 0.16 (150×224)
フィルター径		52 mm	58 mm
フード		EW-54	EW-60 B
長さ×最大径		61×65 mm	63×68 mm
重量		170 g	280 g
ケース (ハード/ソフト)		LH-C 13/ES-C 9	LH-C 13/ES-C 9

・都合により製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。(データはすべて当社試験条件によります)

# Canon

キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社 カメラ販売事業部

〒108 東京都港区三田3-12-15(東急三田ビル8F)

◎カメラ相談センター(製品取り扱い方法ご相談窓口)

東京・〒108 東京都港区三田3-12-15(東急三田ビル8F) ☎(03)3455-9353

◎サービスセンター(修理サービスご相談窓口)

札幌・〒060 札幌市北区北七条西1-1-2(SE山京ビル1F) ☎(011)728-0665  
仙台・〒980 仙台市青葉区国分町3-6-1(仙台ハークビル1F) ☎(022)217-3210  
新潟・〒950 新潟市葉山1-10-26 ☎(025)246-8765  
大宮・〒331 大宮市桜木町4-247(OSビル1F) ☎(048)649-1450  
千葉・〒260 千葉市中央区末広2-13-2 ☎(043)268-5261  
銀座・〒104 東京都中央区銀座5-9-9 ☎(03)3573-7834  
新宿・〒163-02 東京都新宿区西新宿2-6-1(住友三角ビル地下1F) ☎(03)3348-4725  
横浜・〒220 横浜西区北幸2-6-26(HI横浜ビル2F) ☎(045)312-0211  
静岡・〒420 静岡市常盤町2-6-8(トイカビル3F) ☎(054)253-9010  
名古屋・〒461 名古屋東区東桜2-2-1(高岳ハークビル1F) ☎(052)939-1830  
金沢・〒921 金沢市玉綱2-266 ☎(0762)91-8710  
京都・〒604 京都市中京区烏丸通二条下ル秋野々町513(京都第一生命産産ビル2F) ☎(075)255-5953  
梅田・〒530 大阪市北区中崎西2-4-12(梅田センタービル別館) ☎(06)373-8181  
神戸・〒651 神戸市中央区雲井通14-2-2(神戸いすゞリゾートビル8F) ☎(078)291-0535  
岡山・〒700 岡山市柳町2-6-25(朝日生命岡山柳町ビル3F) ☎(086)221-8678  
広島・〒730 広島市中区大手町3-7-5(広島パークビル1F) ☎(082)240-6711  
高松・〒760 高松市紺屋町4-10(鹿島紺屋町ビル1F) ☎(0878)23-4681  
福岡・〒812 福岡市博多区美野島1-2-1(キヤノン販売福岡ビル1F) ☎(092)411-4173  
沖縄・〒900 那覇市松山1-1-19(安田生命那覇ビル8F) ☎(098)866-7933

◎カメラ技術センター(修理サービスご相談窓口)

東京・〒140 東京都品川区東品川11-2-5(東信天王洲ビル5F) ☎(03)3450-2731

大阪・〒540 大阪市中央区森ノ宮中央2-5-3(大阪研修センター1F) ☎(06)941-1076

◎営業所

大分・〒870 大分市城崎町1-3-31(富士火災大分ビル) ☎(0975)37-4117

◎休業のご案内

新宿(日曜日、祝日、第3木曜日)その他(土・日曜日、祝日)

◎営業時間のご案内

新宿: 10:00~18:00 梅田: 9:30~18:00 その他: 9:00~17:30